

淡路夢舞台における地域貢献のあり方勉強会 報告書

令和 6 年 1 2 月
企業庁総務課

Contents

Introduction	00
I 淡路夢舞台の概要	
1 現状	01
2 沿革	02
3 運営状況	02
4 利用者数・収支状況	04
5 その他	06
II 淡路地域の魅力と可能性	
1 淡路エリアの特性	07
2 バイエリア活性化基本方針における 淡路島の位置付け	08
3 バイエリア活性化基本方針に基づく中長期 ・広域プロジェクト（六甲有馬・淡路島） . .	09
III 有識者・関係団体等の主なご意見 . .	10
IV まとめ	14



Introduction

00

< 淡路夢舞台のビジョンと未来（開業当時に淡路夢舞台へ託した兵庫県の思い） >

夢を未来へ、地球へ、子供たちへー新しい都市景観を作り出し、21世紀にはばたく人類の夢を育む舞台装置一

花と緑と海が織りなす素晴らしい景観を最大限に生かしながら、真のコミュニケーションの心が大きく広がる施設群が見事に配置されています。まさに夢舞台と呼ぶにふさわしい“感動のステージ”が実現しました。

幸い、“自然景観の回復”というコンセプトは内外から高い評価を受け、美しい花と緑のなかで、世界中の人々がいっばいにふれあい、人と自然、人と人とのコミュニケーションの輪が大きく広がっていくことは喜びにたえません。

一人でも多くの方々に「淡路夢舞台」へお越しいただき、感動と交流の輪がさらに大きく広がっていくことを心から願っています。

～ 兵庫県企業庁「淡路夢舞台建設のあゆみ」平成12年3月 より抜粋 ～

< 建築家・安藤忠雄の思い >

「淡路夢舞台」を訪れる人々に、水、風、光、陰、空、山、そして海など、日常見過ごしてしまいがちな自然の様相をどれだけ感じ取ってもらえるかー。

21世紀はもはや、放っておけば自然が環境を整えてくれる時代ではなく、一人ひとりが強い意志をもって、積極的に自然に働きかけながら、環境と共生していかなければならない時代です。庭の木々や小川、六甲山や大阪湾といった身近な自然から地震などの天災も含めた地球規模の長期変動に至るまで、私たちが生きている「環境」に対する意識を少しでも高めるきっかけになればと考えています。

2000年という節目の年に誕生した夢舞台。これから千年の時を超え、水と緑に囲まれて、人々に勇気を与え続ける場所に育ってほしいと願っています。

～ 淡路夢舞台HP より抜粋 ～

I 淡路夢舞台の概要

1 現状

- ・ 関西国際空港などの人工島造成に伴う広大な土砂採取跡地に、自然環境の回復と緑豊かな景観の創造を図り、大阪湾ベイエリアにおいて人・自然・文化が交流する「淡路島国際公園都市」の**中核施設**として整備
- ・ 淡路島における阪神・淡路大震災からの**創造的復興に向けたシンボルプロジェクト**としても位置付け
- ・ 公共性と収益性を併せ持つ広大な施設群（安藤建築）を一体的に運営するため、県内・島内の民間企業、団体等からも広く出資による参画を求め、**第三セクター**として、**(株)夢舞台**を設立
- ・ 開業後四半世紀を迎えようとしており、**大規模改修**の時期が迫る。
なお、淡路夢舞台を構成する施設群のうち、温室と国際会議場は改修済み。



平成4年の状況



現在の淡路夢舞台(グランドニッコー淡路など)

I 淡路夢舞台の概要

2 沿革

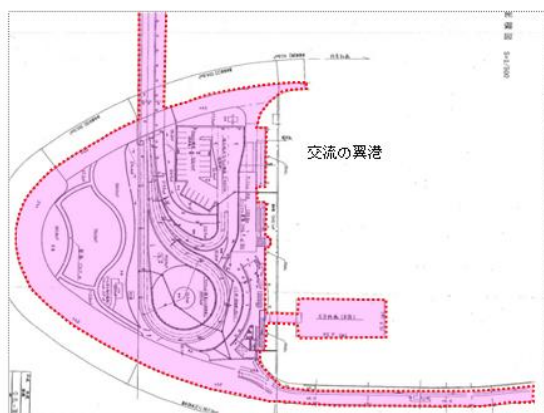
年度	沿 革
S35～	・ 灘山の土砂採取（約 1 億 m ³ ）を開始（土取跡地：約 130ha）
H3	・ 淡路島国際公園都市構想策定（企画部）
H4	・ 淡路夢舞台施設基本計画策定（企画部）
H6	・ 計画段階から実施段階への移行に伴い、企画部から企業庁に事務を移管 ・ (株)夢舞台設立 ・ 平成 7 年 1 月 17 日 5 時 46 分 阪神・淡路大震災 発生
H7	・ 阪神・淡路大震災により、従来の整備方針に加え、防災都市づくりの理念なども盛り込みながら整備内容等変更
H8	・ 施設群着工
H11	・ 淡路夢舞台施設群の中核施設としてホテルが開業
H14	・ 過大な初期投資により、減価償却費等が(株)夢舞台の負債の大部を占める状況に陥ったため、リースバック方式を採用（企業庁がホテル・展望レストランを買い取り、同社へ有償で貸し付け）
R2	・ ホテルブランドを変更（ウェスティン⇒グランドニッコー）

3 運営状況

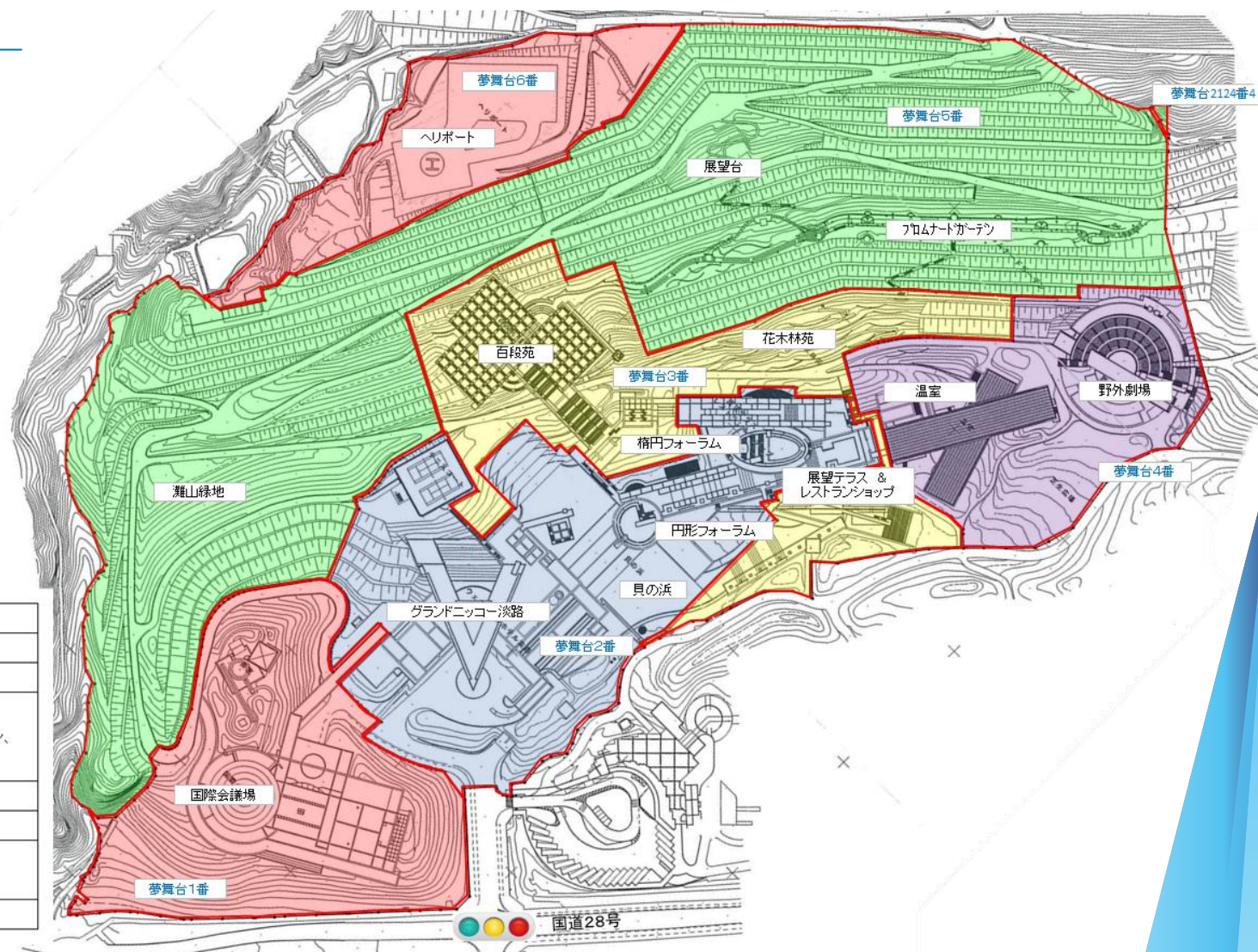
- ・ 各施設の運営は(株)夢舞台が担当しているが、施設の所管は県庁内の複数部局で分担
- ・ ホテルは、企業庁から賃貸借契約により**資産を貸し付け**たうえで運営を実施
- ・ その他施設（国際会議場、灘山緑地、温室、交流の翼港等）は、**指定管理制度**により運営を実施

3 運営状況（つづき）

[夢舞台全景（所管色分け）]



	所管課	地番	面積(ha)	備考
	国際課	夢舞台1番	約 3.4	国際会議場
		夢舞台6番	約 1.8	ヘリポート
	公園緑地課・企業庁 持分比による共管	夢舞台2番	約 4.7	ホテル、 展望テラス & レストラン、 駐車場
			公 約 1.2	
			企 約 3.5	
	公園緑地課	夢舞台3番	約 3.5	百段苑、花木林苑
	公園緑地課	夢舞台4番	約 2.5	温室、野外劇場
	公園緑地課	夢舞台5番	約 11.3	灘山緑地
		夢舞台2124番4		
	港湾課	淡路市楠本	約 1.8	あわじ交流の翼港



I 淡路夢舞台の概要

4 利用者数・収支状況

- ・ **ホテルの稼働率**は、「県民割」や「全国旅行支援」の終了や悪天候（台風）の影響等を受け、R4年度実績を下回ったものの、**コロナ禍前の水準にまで回復**
- ・ **ホテルの宿泊売上**は、継続的な高単価施策が奏功しH30年度と比較して**大幅に増収**

ホテルの利用者数等の推移		年度実績						R5年度 対H30比
		H30	H31(R1)	R2	R3	R4	R5	
ホテル	客室稼働率(%)	68.5%	63.1%	36.5%	37.3%	66.5%	63.0%	▲ 8.0 %
	宿泊人員(人)	98,190	90,594	53,472	57,044	99,765	93,306	▲ 5.0 %
	宿泊売上(百万円)	859	858	615	652	1,178	1,117	+ 30.0 %
	ADR (円)	17,102	18,490	22,941	23,861	24,146	24,097	+ 40.9 %
	RevPAR (円)	11,711	11,658	8,379	8,892	16,054	15,186	+ 29.7 %

- ・ (株)夢舞台全体としては、R5年度は**前年度（R4年度）を上回る売上**を確保
- ・ しかし、水道光熱費の高止まりや経費増大に伴い、会社全体の収支（R5年度）は**26百万円の赤字**

(単位：百万円)

会社全体収支	H30	H31(R1)	R2	R3	R4	R5
収 益	3,625	3,697	2,539	2,705	3,611	3,785
費 用	3,661	3,767	2,828	2,858	3,543	3,811
当期純損(▲)益	▲36	▲70	▲289	▲153	68	▲26
純資産	500	431	142	▲11	57	31

I 淡路夢舞台の概要

4 利用者数・収支状況（つづき）

- ・ ホテルを除く **各施設の利用者数**は、回復傾向にはあるものの**コロナ禍前の水準には届かず**。
- ・ 特に、大型宴会の需要回復が進まず、宴会部門の売上はコロナ禍前の6割程度に留まっている。

[その他施設利用者数の推移]		年度実績						R5年度 対H30比
		H30	H31(R1)	R2	R3	R4	R5	
宴会場	婚礼(件)	83	65	33	49	67	47	▲ 43.4 %
	一般(件)	570	508	152	223	410	460	▲ 19.3 %
	売上(百万円) ^{※1}	455	381	67	108	240	276	▲ 39.3 %
レストラン	利用者(人)	235,218	217,057	119,544	122,402	195,715	183,412	▲ 22.0 %
	売上(百万円)	723	689	431	460	711	720	▲ 0.3 %
展望テラス内 レストラン	利用者(人)	187,613	176,365	84,535	92,163	108,358	115,173	▲ 38.6 %
	売上(百万円)	288	269	127	136	165	197	▲ 31.7 %
ハイウェイ オアシス	利用者(人)	1,605,190	1,549,590	901,590	945,690	1,433,450	1,569,730	▲ 2.2 %
	売上(百万円)	1,456	1,453	824	897	1,381	1,591	+ 9.3 %
国際会議場	利用日数(延べ日数)	642	687	545	499	563	569	▲ 11.4 %
	利用件数(件)	385	404	261	263	347	351	▲ 8.8 %
温室	利用者(人)	180,782	173,479	83,506	75,972	103,404	108,097	▲ 40.2 %
交流の翼港	利用数(隻)	680 (H29年度 ^{※2})	38	492	532	607	504	▲ 25.9 % ※対H29年度

※1：宴会場の売上は、R2.12から婚礼が外部委託になったため、以降は宴会売上のみで計上。

※2：H30年度は交流の翼港が部分休業。比較対象として、年間通して営業を行っていたH29年度の実績を計上。
休業期間 [H30.9～R2.3.1（台風）／R2.4.22～R2.5.31（コロナ）]

I 淡路夢舞台の概要

5 その他

○インバウンドの利用状況（ホテル）

- ・インバウンド客のシェアは、**客室数で7.2%、売上で6.3%**程度
- ・個人客と団体客を合計すると、**台湾・韓国・香港・中国でインバウンド客の約85%**を占める。
- ・ONHM※台湾営業所への営業が奏功し、インバウンド客の**5割弱が台湾からの流入**で占める。

※株式会社オークラ・ニッコー・ホテルマネジメントの略称でありホテルオークラグループのホテル運営会社

[インバウンドシェア]	R5年度実績（TOP5）					
	台湾	韓国	香港	中国	アメリカ	その他
客室数合計(室)	1,556	451	449	354	110	422
割合(%)	46.6	13.5	13.4	10.6	3.3	12.6

○淡路市への観光入込客数と淡路夢舞台利用者の割合

- ・開業以降、淡路地域への入込客数の**約1割**が淡路夢舞台施設を利用

（単位：万人）

年度	H12～H29	H30	R1	R2	R3	R4	計	年平均
淡路地域 ①	20,815	1,257	1,260	802	959	1,281	26,374	1,147
夢舞台※ ②	2,360	134	130	68	84	115	2,891	126
割合 ②／①	11.3%	10.7%	10.3%	8.5%	8.8%	9.0%	11.0%	10.9%

※淡路夢舞台の利用者数は以下の施設利用者の合計から算出した。

ホテル宿泊、婚礼、宴会、レストラン、スパ・フィットネス、展望テラス内レストラン、温室及び国営明石海峡公園

[出典] 兵庫県観光客動態調査報告書（各年度）

II 淡路地域の魅力と可能性

1 淡路エリアの特性

- ・ 淡路島は、**国生み伝承**のゆかりの地であり、**古代の御食国**として食材の宝庫
- ・ 四季折々の美しい自然に囲まれ、**関西で屈指のリゾート地**
- ・ 北部を中心に、続々と魅力ある施設がオープンしており、**人気急上昇中**
- ・ **生命つながる「持続する環境の島」**を目標に、「エネルギーが持続する地域」と「農と暮らしが持続する地域」の実現を目指して**あわじ環境未来島構想**を推進



明石海峡大橋

全長3,911m、
主塔の高さ298mを誇る、
世界最大級の吊り橋

禅坊 靖寧

360度に広がる四季折々の
景色、燦々と降り注ぐ陽の
光、澄んだ空気、雄大な緑、
夜空に輝く星たちを堪能



絵 島

国生み神話に登場する
「おのころ島」
伝承地の一つ



兵庫県立公園
あわじ花さじき

明石海峡・大阪湾を背景
に、約15ヘクタールの
花の大パノラマが展開

II 淡路地域の魅力と可能性

2 ベイエリア活性化基本方針における淡路島の位置付け

神戸・阪神・**淡路**

○兵庫県域の大阪湾バイエリア活性化基本方針（R5.3策定・企画部）

- 策定趣旨 大阪・関西万博・神戸空港国際化 → バイエリアの将来像 + 多様な主体の取組方向
- 目指す姿
 - ① 世界からの人・モノ・投資 → 新産業・ビジネスが立ち上がる創造的エリア形成
 - ② ウェルビーイング&サステイナブルなエリア → 新たな価値・ライフスタイルの発信
 - ③ 産学公民の協働による推進 + 関西・瀬戸内を繋ぐ結節点として機能

【淡路エリアの目指す姿】 生命あふれる原点回帰エリア

- 神戸大都市圏への近接性 + 豊かな食・自然 + 地域に息づく歴史・文化
 - 国内外からの人の流れと交流
 - 暮らしの本質を思い出し、原点へ立ち返る機会（人とのふれあい・本物の体験）

インバウンド・富裕層も見据えた 観光・交流エリアの形成

人の流れを円滑にする 交通ネットワークの形成

持続的に発展・循環する エネルギー・産業モデルの創出

《基本方針の取組例》

- ・ラグジュアリーホテルの誘致
- ・非日常・プライベート別荘施設の誘致
- ・ホスピタリティ・食の専門家養成
- ・着地型観光に向けた観光ガイド養成
- ・関西・瀬戸芸エリアと結ぶクルーズ商品造成
- ・大型クルーズ船・水素船・空飛ぶクルマの誘致
- ・淡路交流の翼港の船舶受入環境の向上
- ・徳島空港アクセスバスの実証
- ・大鳴門橋自転車道の開通（サイクルツーリズム）
- ・カーボンニュートラル推進
in 夢舞台サステイナブル・パーク
→ 環境省・脱炭素先行地域選定



II 淡路地域の魅力と可能性

3 ベイエリア活性化基本方針に基づく中長期・広域プロジェクト(六甲有馬・淡路島)

○六甲有馬・淡路島WellnessDestinationの推進 (R5.4～企画部)

■六甲山と瀬戸内海の自然・気候・文化・食→これらが都市近郊に集積する健康保養地のポテンシャル
→ **世界クラスのWellnessDestinationエリア**を形成

- 保養地「**六甲山**」と日本三古泉「**有馬温泉**」を擁する **『山』のリトリートエリア**
- 瀬戸内海最大の国生みの島・御食国「**淡路島**」を擁する **『海』のリトリートエリア**

■対象 **国内外モダンラグジュアリー層**→高付加価値・滞在型

■時期 **2030年(想定)**→神戸空港国際化、IR開業

■体制 **ベイエリア活性化推進協議会 企画委員会**
「六甲有馬・淡路島 WellnessDestination」検討WT

【ツーリズム全般】

座長



古田菜穂子
ひょうご
観光本部
ツーリズム
プロデュー
サー

【プロモーション】



阿部剛
CCCメディア
ハウス
メディアプロ
モーション局長
兼 コンテンツ
スタジオ局長

【インバウンド誘客】



大橋健太
HANDSON
JAPAN
代表取締役

【美容分野PR】



新井ミホ
LACARPE
代表
メディカル
フィット
セラピスト

【都市計画・交通】



織田澤利守
神戸大学
大学院工学
研究科教授

【アドベンチャーツーリズム】



岩浅有記
大正大学
地域構想
研究所
准教授

【『山』のリトリートエリア】

～保養地「**六甲山**」・三古泉「**有馬温泉**」～

- ◆ 森林クアオルトプログラム
- ◆ 六甲ミーツアート芸術散歩、トレッキング
- ◆ 有馬温泉の湯治・泉源めぐり
- ◆ 神戸ビーフ・灘五郷のテロワール体験 など



- ◆ 関西・瀬戸芸エリアと結ぶクルージング商品造成
- ◆ 水素船・空飛ぶクルマの誘致

瀬戸内国際芸術祭

【『海』のリトリートエリア】

～国生みの島・御食国「**淡路島**」～

- ◆ ラグジュアリーホテルの誘致
- ◆ ホスピタリティ・食の専門家養成
- ◆ 夢舞台・安藤忠雄ワールドツアー
- ◆ 鳴門渦潮・沼島おのころ・海洋療法のクルーズ
- ◆ 洲本温泉・南あわじ温泉郷の湯治
- ◆ 禅・ヨガリトリート、発酵食・循環農業の体験
- ◆ 淡路線香・淡路瓦づくり体験 など

※◆ベイエリア基本方針の取組例、フィールドパビリオンなど

III 有識者・関係団体等の主なご意見

○ 有識者のご意見

氏 名	分 野	主なご意見
赤澤 宏樹 (人と自然の博物館次長)	公園緑地 マネジメント	<ストーリーの発信> ○夢舞台は、単なるリゾート開発ではなく土砂採取跡地を再生したという背景・ストーリーがある。こうしたストーリーがあれば、灘山緑地はOECM（人と自然の共生地域）として、国際データベースに登録される可能性もある。 <経済と結び付けた森の形成> ○海も含めた緑の価値に注目している。灘山緑地は、存在効果（防災・景観）だけでなく、利用・波及効果に繋がられないか。金も時間もかかるが、民間の開発余地を設けるなど、経済と結び付けた森の形成が重要。 <アクティビティベースド・モデル> ○淡路北部の開発が進むなか、人を施設に集中させ、囲い込むのではなく、地域での自由な往来を促すアクティビティベースド・モデルが望まれる。民間企業のノウハウによる細かなアクティビティや機動的・多目的な活用などに期待できる部分もある。 <ブランディング> ○日常から異なる世界があるのが“淡路らしさ”。例えばNYのハイラインのように、歴史的価値を生かした非日常空間を追求することで、飛躍的に価値を向上させることができる。 ○淡路夢舞台は、陸・海（交流の翼港）・空（ヘリポート）を活用することができる。 ○県の思いをすべて明確に伝えることで、民間ならではの県の想像を超えたコンセプトやアイデアが期待できる。ブランディングは、投資を行う民間企業の意向や考えも参考にするべき。 <民間活力の導入と県のガバナンス> ○淡路夢舞台に込める公的な思い（ポリシーやストーリー）を明確にすることが重要。 ○県の思いを反映した制限・制約をかけることも含め、ガバナンスを整理することが大切となる。そのうえで、県の思いに共感した民間企業を採用することでガバナンスを維持できるのではないかな。

Ⅲ 有識者・関係団体等の主なご意見

○ 有識者のご意見

氏 名	分 野	主なご意見
橋爪 紳也 (大阪公立大学教授)	建築学	<淡路夢舞台の魅力・ポテンシャル> ○淡路島に魅力があるのは確かだが、海外都市との競争性があるかを検討する必要がある。夢舞台だけでなく、淡路島東海岸や関空・大阪湾なども含めた大きなスケールで検討する必要がある。 ○IRは原則として連泊する滞在型の施設である。IR需要を取り込むには、事業者とタイアップし、淡路への日帰りツアーなどに夢舞台を組み込む等の工夫も必要である。 <国際会議の誘致－IRと夢舞台> ○MICE・国際会議の誘致には、専門的なプロモーター人材が必要。 ○国際的なMICEは、多くは大規模会議場ではなく中型で対応できており、夢舞台の規模でも不足はない。むしろ、夢舞台の理念や経緯を生かして、環境系・震災系等のサミットや学会を誘致し、アフターMICEとして淡路の自然と食、神戸・大阪・瀬戸内へもリーチできるアクセスの良さ等をアピールしても良い。 ○大阪のIRも見据え、早期に違いや強みを打ち出すべき。 <安藤建築の価値と将来への投資> ○安藤建築は、将来的に重要な文化的遺産となるだろう。増改築はあったとしても、「国際公園都市」という当初のコンセプトを尊重しつつ、建築としての本質的な価値は維持しなければならない。 ○公共として、機能や理念など残すべき部分をはっきりさせながら、既存の利用形態にとらわれないかたちで考えていくことが必要。 ○公共的な取り組みに積極的に投資する枠組みを用意する必要がある。そのため、将来に向けたシナリオが重要。

Ⅲ 有識者・関係団体等の主なご意見

○ 有識者のご意見

氏 名	分 野	主なご意見
古田 菜穂子 （ひょうご観光本部 ツーリズムプロデューサー）	観光戦略	<淡路夢舞台の価値の創出・ブランディング> ○25年前に作られた安藤忠雄氏の思いは、環境と共生や自然のあり様など、21世紀で実現すべき考え方が示されている。改めて、夢舞台のネーミングや理念について振り返るべき時 ○ホテルと他の施設のイメージ、ストーリーがつかない。夢舞台は、何を体験し、何に感動する場所なのか、明確なメッセージが伝わらない。力のある人が関わり、トータルプロデュースによって「リジェネラティブ（創造的に再生）」するべき。 ○ホテル単体ではなく、夢舞台全体として価値を創出する必要がある。 行政が中心となり、長期間のビジョンを持ちながらブランディングすることが必要 ○“淡路だからこそ”の場所・ホテルにする必要がある。そういう意味では、淡路島に訪れる人が何を目的にしているのかを明確にするべき。例えば、環境や健康、自然の恵みを踏まえた“リトリート”や同様のテーマやメッセージ性のあるMICEの実施など。方針やコンテンツが明確になると、民間企業も参画・投資がしやすくなる。 <公と民の役割分担> ○「公には公のできることを」という役割分担を明確にするべき。県が経営を担うのは難しい。ビジネスの責任を最終的に公が担うというやり方は見直すべき。 ○海外との関わりという点でみれば、自治体の持つ力は強い。その点「公の力」を認識する必要がある。 <公共性のある投資> ○県の思いを組んだ公共性のある投資を呼び込めるようなスキームに留意するべき。初期投資にとどまらず、持続可能な調達ができる「投資のシステム」を作ることが重要。 ○利益だけを考えるのではなく、「社会貢献・地域貢献に繋がる事業に、民間としての参画を呼び掛ける」というスキームを明確に発信することが重要。 ○エリアブランディングを担うトータルプロデューサーや、組織の専門家のほか、投資の持続可能な仕組みを作ることができる人材が重要となる。

Ⅲ 有識者・関係団体等の主なご意見

○ 関係団体等のご意見

団体・部局名	選定理由	主なご意見
淡路市	施設所在市	・ 明石海峡大橋を渡ってきた最初にこの施設（淡路夢舞台）があることは望ましい ・ 淡路島には多数の土砂採取場があるが、自然が残っているのはこのエリアだけ ・ 民間が行なう部分と公共が行なう部分が混じり合うとよいのではないか ・ 淡路市としては、淡路夢舞台が周辺の核となるよう新たな形で復活してほしい
国営明石海峡公園事務所	隣接施設を所管	・ 国営明石海峡公園と夢舞台は、共に歩んできた施設といえる ・ これまで蓄積してきた文化的側面も含め、これからも連携していきたい
淡路県民局	所管県民局	・ 淡路島はいま活況しており、非常にポテンシャルのある地域 ・ これまで夢舞台が地域振興に果たして来た拠点としての役割は大きい ・ 民の力をうまく取り入れることで、これからも引き続き地域振興に貢献して欲しい
県企画部	県政の総合的企画を所管	・ 神戸空港国際化により、今後さらに海外からの来訪が見込まれるなか、淡路夢舞台には兵庫県への観光客取り込みの一翼を担ってほしい ・ これから国内外のモダンラグジュアリー層へ訴求していくにあたり、淡路夢舞台のグレードアップは県の方針とも合致しており、歓迎したい

IV まとめ

○ 淡路夢舞台の役割

【現状整理】

- ・ **大阪・関西万博開催**（R7：来場見込 約2,820万人）、**IR開業**（R12：来場見込 約2,000万人）、**神戸空港国際定期便就航**（R12頃：増加旅客数見込（国際線のみ） 約190万人）等、大阪湾ベイエリアは新たな展開を迎える。
- ・ これまで淡路夢舞台は、明石海峡大橋を渡って最初に訪れる施設として観光客にとっての魅力を提供し、**淡路島全体の観光促進に寄与**してきた。

【求められる役割】

- ・ 大阪湾ベイエリアの新たな展開を見据え、**淡路島に国内外の“新たな人の流れ”を呼び込み、地域をさらに活性化**することが求められる。
- ・ 淡路夢舞台が**地域の活性化を牽引する拠点（核）**となるよう**新たな形で再生**することが求められる。



○ これから取り組むべきポイント

- ・ 地域や施設のもつポテンシャルを活かしつつ、**エリア全体の視点での競争力を高める**ことが必要
- ・ 県として、**淡路夢舞台全体としての長期ビジョン（理念やストーリー）**の作成が必要
- ・ 民間企業の投資を呼び込み、**公共と民間が協力して地域振興を進めるスキームの構築**が重要



淡路夢舞台全体の長期ビジョンを作成して公共性のある民間投資を呼び込み、
これからも地域を牽引する拠点（核）として**創造的な再生**をはかるべき



兵庫県